

北海道大学 消化器外科 I レポート

竹野 巨樹

私は 4 月 16 日から 4 週間、消化器外科 I で実習をさせていただきました。消化器外科 I の実習では、大学病院と市中病院を両方回らせていただけると聞いていたので、大学病院での専門的な医療と市中での **common disease** の両方を学べる機会だと思い、選択させていただきました。私は大学病院と天使病院で 2 週間ずつお世話になりました。

大学病院ではちょうど肝移植が予定されていたタイミングだったので、移植グループで実習させていただきました。なかなかみることができないであろう生体肝移植について、ドナー・レシピエントの適応や術前管理について学び、実際の手術では手洗いをして手術を目の前で見学することができました。脈管をつなぎ終え、血流遮断を解除した際は圧巻でした。移植グループ以外の手術も見学に行ったら手洗いをさせていただいたり術中にいろいろ教えていただいたり、幅広く消化器外科について学ぶことができ、とても充実した 2 週間でした。

また大学病院では疾患について学ぶだけでなく、カンファレンスや総回診でのプレゼンの機会をいただきました。しっかりとしたプレゼンを学ぶ機会は他の科の実習では案外少なく、とても良い経験でした。総回診中の武富教授から私たち学生への質問は当時はびくびくしていたものの、その内容は脳裏に刻まれ、国家試験勉強でも生きてきます。

天使病院では、外科・小児外科グループで 2 週間お世話になりました。ヘルニアや胆摘などの **common disease** から胆道閉鎖症といった稀な症例まで、小児から成人まで幅広く学ぶことができました。わずかなミスも許されない小児の手術に、汗びっしょりになりながら最初から最後まで参加できたことは今後忘れないでしょう。

また 2 週間初期研修医の先生方について一緒に回らせていただくことで、一年後の自分のイメージと重ね合わせ、勉強の励みとなりました。去年まで同じ大学内で見かけていた一つ上の先輩がバリバリ働き、執刀までしている姿はとても刺激的でした。

消化器外科 I の実習は一部の学生は他の科に比べて朝早い、大変だと感じるかもしれませんが、でもそれをはるかに上回るたくさんの方のことを学ばせていただけだと思います。国家試験勉強にとどまらず、自分が研修医となっても生きてくるものを得られるのではないのでしょうか。

最後になりますが 4 週間という短い期間ではありますが、消化器外科 I、天使病院の先生方・秘書の皆様には本当にお世話になりました。この経験を活かし、人として医師として成長していけたらと思います。ありがとうございました。